

令和3年度 さいたま市立上木崎小学校 自己評価書

校長 鈴木 和博

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) タブレットPCを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する指導方法の研究に取り組む。【各教科等の授業の状況】
- (2) 全教職員の共通理解・共通行動のもとに、「あいさつ」やあたたかな言葉づかいのできる児童を育成するとともに、相談活動を有効に行い、いじめのない、不登校の児童がいない学校を目指す。【生徒指導の状況・いじめ防止等の状況・教育相談の状況】
- (3) 登下校時、廊下歩行や清掃等、落ち着いた行動ができるよう指導を徹底するとともに、手洗い、うがい、十分な睡眠、バランスの良い食事などを心がけさせ、新型コロナウイルス集団感染防止の徹底を図る。【安全教育の状況】
- (4) 学校業務を大胆にスクラップし、教職員の健康管理と在校時間の縮減を図る。【学校における働き方改革】

2 評価結果について

- ・「情報機器を有効に活用した授業を実践している」ことについて、保護者の84%、教職員の92%が肯定的な回答となった。「オクリンク」「ムーブノート」「パワーポイント」等を活用した「協働的な学び」や、「ドリルパーク」、インターネット等を活用しての「個別最適な学び」を実践することができた。ICTの効果的な活用を目指した学校課題研究のさらなる推進を図っていく。
- ・「全職員が共通理解のもと、組織的な行動、指導をしている」ことについて保護者の肯定的な回答は62%にとどまった。「あいさつ」については保護者の83%が肯定的であるが「十分できている」は21%となっている。
- ・「自分のよさをのばすことができた」「いじめや差別がなく、誰とでも仲良くすることができた」ことについて児童は92%、「認めて育てる指導を効果的に行い、児童のよさをのばしている」「いじめや差別をなくし、誰とでも仲良くできる児童を育てている」では保護者の80%が肯定的な回答をしている。
- ・保護者との連携については65%が肯定的な回答である。「悩み事やトラブルを周囲の人に相談することができた」では、86%の児童が肯定的な回答をしている。
- ・「登下校や学校内で安全に行動することができた」について、児童の98%が実践できた。保護者の82%が実践できていると回答している。「手洗い・うがい・歯みがきなどをきちんとすることができた」について児童は97%、「保健指導を充実させ、健康な生活を送るための実践的な力を育てている」では保護者の78%が肯定的な回答である。
- ・教職員への質問「業務改善と在校時間短縮が図られている」については、肯定的な回答が64%となった。新型コロナウイルス感染拡大防止に関する業務やタブレットPC導入による新たな業務への負担が影響していると考えられる。通知票については、記述による評価を学年末にまとめることなどにより、成績処理の業務軽減を図ることができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・年度当初及び毎月行われる生徒指導部会にて生徒指導の共通理解・共通行動を図り、全職員への周知徹底を図る。あいさつすることのよさや大切さについて、学級や全校朝会にて繰り返し指導するとともに基本的な生活習慣の確実な定着を図るようにする。
- ・いじめ、不登校に対しては、早期発見・報告を徹底するとともに、学年、生徒指導・教育相談部、いじめ防止対策委員会等において共通理解を図り、組織的に対応する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、さわやか相談員との連携を密にとり、個に応じた支援と、安心して生活できる学校づくりを行う。
- ・今年度から保護者向けアンケートに「わからない」という回答項目を設けたところ、「わからない」と回答する保護者も多くいた。授業参観や学校公開、各種行事等が計画通りに実施できなかったことも大きな要因であると考えられるが、学校での教育活動について学校便りや学年便り、学校HP等で、より積極的に家庭、地域に発信していく。